



NPO法人
ヒマラヤ保全協会

IHC-JAPAN: The Institute for
Himalayan Conservation Japan

Shangri-la

シャングリラ



現地からの
報告



100円でヒマラヤに1本の を植えよう!

One coin One tree on Himalayan, tomorrow will be in your hands.

現 地 報 告

IHC 会長
京都大学 特定准教授
相馬 拓也

キルギスのイシクル湖岸の野生動物調査報告

キルギスのイシクル湖に、2022年1月に2週間ほど訪問してきました。南岸ボコンバエバの町の南方に広がる、バイボースン自然保護区に生息するユキヒョウ調査や、動物民話の記録、オオカミ狩りへの参加を実施してきました。キルギスの天山山脈には、ユキヒョウをはじめ、イヌワシ、ヒゲワシなどの猛禽類のほか、オオヤマネコ、マヌルネコ、ライチョウなどの貴重な動物が数多く生息しています。同地には標高5,000mを超える連山のほか、無数の氷河とモレーン地形の溪谷が存在し、そのランドスケープは『ロードオブザリング』や『ドラクエ』にそのまま出てきそうな壮大な景観となっています（図1）。

ユキヒョウ調査では、標高3,400m付近トラップにカメラを複数台設置して、個体識別などを行ってきました（図2a-c）。またオオカミは、一年を通じて遊牧民の家畜を捕食するため、定期的にオオカミ狩りが行われています。山地の-20℃を下回る酷寒の環境で、じっと何時間も藪の中に身をひそめてオオカミを追う狩猟は、ハンターの精神力が問われる試練の場でもあります（図3）。

地球規模の広義のヒマラヤ山脈の定義では、キルギスの天山山脈や、タジキスタンのパミール高原なども、「ヒマラヤ山系」の一部とされることもあります。その天山山脈には、いまだに2,000峰以上の未踏峰があるといわれています。山好きのみなさんは、ぜひキルギスにもご関心をお寄せいただければと思います！



図1 イシクル湖南岸で、ハンターさんと学生アシスタントたちと。



図2a トラップカメラの設置作業



図2b 撮影されたユキヒョウの成獣



図2



図3 肩に銃を下げたオオカミを追い詰めるハンターたち。

第7回 ネパール語を学ぶ・・・歌って踊る村の宴会（と命令形表現）

ナマステ。サンツァイツァ？《元気ですか？》

4半世紀前、首都カトマンドゥ近くの村で、私はホームステイをしました。村《ガウン》で印象深かったことの1つは、毎月のようにある大小のお祭り《メラ、パルワ》や宴会《ボーズ》で村人たちが《ガウンレハル》が本当に楽しそうに歌《ギート》を歌い《ガウヌ》、楽器《バジャ》をならし《バジャウヌ》、踊り《ナーツ》を踊る《ナーツヌ》姿でした。今回は、そこらへんを題材にしてネパール語を紹介します。それでは始めましょう《スル ガロン》。

ネパール人の宴《ボーズ》の席では次のような会話がネパール人《ネパリ》との間でよく交わされます。

「タパインライ ギート ガウナ アウンツァ？（あなたは歌を上手に歌えますか？）」

「アウンダイナ（できません）」

「タパインライ ナーツ ナツナ アウンツァ？（あなたは踊りを上手に踊れますか？）」

「アウンツァ アウンツァ（できます できます）」

「テェソバエ（そうであるなら） サンガイ ナーツ ナツォン（一緒に踊りを踊ろう）」

ここで、「誰々ライ 動詞をナで終わらせる形（不定詞という）「アウンツァ」というネパール語の構文は、誰々さんは何々が上手にできるという意味で、よく耳にしますし、かつ使える言い回しです。例えば「マライ ヒンディーバサ（ヒンディー語）ボルナ（ボルヌ（話す）の不定詞） アウンツァ（私はヒンディー語を上手に話せる）」（マは「私」の意）とかですが、不定詞の代わりに名詞を置いて使っても大丈夫ですから「タパインライ ジャパニバサ

（日本語） アウンツァ？」などとネパール人に尋ねるのも OK です。また宴会《ボーズ》では動詞の命令形でネパリハル（ネパール人たち）からよくお誘いを受けることになります。

「ガウヌス！（歌って！）」

「ガウオン（一緒に歌おう）」

「バジャウヌス！（楽器をひいて！）」

「バジャオン（一緒にひこう）」

「ナツヌス！（踊って！）」

「ナツオン（一緒に踊ろう）」

ここで、ヌス語尾は2人称への命令形（してください）で、オン語尾は一人称複数の命令形（しましょう）です。この命令形を使えると会話をアクティブにできますので、ここで少々練習してマスターしてみましょう。発音してみてください。ザヌ（行く）は、（行きなさい）はザヌス、（行きましょう）はザオンです。ガルヌ（する）だと（してください）はガルヌスで（しましょう）はガロンです。カヌ（食べる）は、カヌスとカオン。それではクラガルヌ（話をする）をつかって（話しましょう）は言えますでしょうか？いずれにしろ、こうしたやり取りをしているうちに私もネパールでのお祭りや宴会では歌ったり、踊ったりを大いに楽しむようになっていました。日本に戻り職場の飲み会とかでお酒を飲んでいるときに、ふと、歌って踊って楽しんだネパールでのボーズが無性に懐かしくなることがあります。

さてそれでは最後に、これも命令形ですが、フェリ ベトン（また 会いましょう）！

（文責：布施達治）

現 地 報 告

フリーランス
カメラマン

稲田 喬晃

稲田カメラマンの現地報告① 2019 年 11 月

ネパールの首都カトマンズは混沌とした喧騒の最中にあり、そこから逃れるように、早朝のバスターミナルから長距離バスに乗り、険しい山間の道を西へ200km、8時間かけてポカラの街に辿り着きます。レイクサイドには穏やかな時間が流れ、晴れているとそこから遠くにアンナプルナやダウラギリの8,000mを越える神々しい山の峰々が。とにかく移動の繰り返しで、ポカラからは小さな車に乗り換えて、峠を越えてベニへ向かう。ベニからはインド製のジープ「マヒンドラ」に揺られて山を登ります。数時間激しく揺られて、疲労と高度のせいか、意識が少し朦朧としてきたところで、ようやく活動拠点の村々に辿り着くことができます。バランジャ、ナンギ、サリジャ、レスパル、パウダル、シーカ、スワンタ・・・IHCが活動を

展開する事業地は、そうした遠隔地に位置していることを、改めて理解することができます。

ネパール現地活動には2018年6月と2019年11月に同行させて頂き、カメラマンとして写真と映像を記録し、記憶に残る貴重な経験をさせて頂きました。ヒマラヤ保全協会が長年の植林活動を通じて、現地に根付いた素晴らしい活動の成果を、数多く視覚資料として記録することができました。かつては山肌がむき出しになっていて、その場所に何十年もかけて木々を植え続けた植林区を歩いてみると、木々は大きく育ち、当たり前のように緑がありました。そこには、10年、20年、という単位を費やした活動の成果がありました。すぐに目先の結果だけを短絡的に求められるような今の時代において、遠い未来をイメージして長い間



レスパル村の遠景



バランジャ村の植栽地の視察



↑ IHC が過去に設置したトレッカー用のごみ箱

隔で築いていくことが、どれだけ
凄いことなのかを体感することが
できました。現地での滞在も終盤
となったころ、小さな苗を実際に
山肌に植えさせて頂きました。現
地にいる方々と共に大切な場所を
守っていくお手伝いに、これから
も関わっていただけたらうれしいと思
います。木を植えるということは、
ただそこに木を植えるということ
だけではなくて、そこに暮らす人々
と関わって未来を共有して作って
いくことであり、支えたり支えら
れたりしながら、未来へ旅する最
初の一步なのかもしれません。

コロナウイルスのパンデミック
によって突如、当たり前の日常が
奪われてしまい、現地の人々の健
康や暮らしがとても心配な毎日で
す。かれらの無事を祈り願い、ま
たコロナ収束後には現地を訪問し、
カメラマンとして記録を残すこと
で、活動継続のために微力ながら
参加し続けていけたらと思います。



訪問したときは、ちょうど村のお母さんたちが穀物を脱穀している季節でした。



スワンタ村から眺めたダウラギリ峰



レスバル村の機織り工房で飲 されたとき。10 名以上のメンバーが機織り事業に参加しています。

現 地 報 告

フリーランス
カメラマン

稲田 喬晃

稲田カメラマンの現地報告② 2022 年 1 月

◇パウダル村／訪問日 2022 年 1 月 19 日

パウダル村では、10 年以上続くチーズ工房を訪問し、職人たちとミーティングしました。コロナ・パンデミックのロックダウンで2年間も工房を閉めたままで、とっても困っている様子でした。村の乳牛飼育者たちも、ミルクの買取先がなくなって困り果て、結局は牛を売ってしまったとのことでした。もしチーズ工房が再開できればまた牛を飼う意思があるけれど、再開がいつになるか分からないので、これからどうしたらいいものか、と頭を悩ませているようでした。

工房の奥の貯蔵庫には古い売れ残ったチーズが3つだけ置かれた光景は、物寂しげでした。本当にすべてが止まっている、という感覚です。工房が稼働していないので、チーズ職人の給料も現状はありません。

現在、IHC では乳牛をパウダルの学校に寄付する計画をしています。今後、村人や学校関係者のみなさんと話し合いの場が持てることとなりそうです。チーズ工房は、再開のための維持や清掃は実施しているとのことでしたので、今後の再開を期待したいと思います！



再開には、まずは観光客や販路が確立されなければならないと話す職人さんたち



パウダル村のチーズ工房内部。現在は稼働していない。



◇スワンタ村／訪問日 2022 年 1 月 20 日

スワンタ村では、1970 年代に川喜田二郎先生が初期の活動で設置した、ロープラインを実際に視察しました。ロープラインで実際に薪や物資を運んでいたことのある宿屋の主人とも会うことができました。ただ、複数本のワイヤーのうち、真ん中あたりで 1 本切れているらしく、途中で引っかかって、このままだと使用困難とのことでした。

設置から 20 年程度経過した 90 年代に、一度ワイヤーは張り替えたとのことですが、老朽化もあり再度の張り替えが必要とのことでした。

また、滑車も全部壊れているので新調したいとのこと。だいたい 35 ～ 40kg くらいの材木や飼料

を向こうの山から運ぶため、修復されればとても助かると話していました。いまは山まで歩いて採取に行っている重労働をしているそうです。ワイヤーはネパール現地では修理が困難かもしれないとのこと。日本からの物資輸送も視野に入れなければならないかもしれません。

スワンタ村は、モハレダングやブンヒルなどの景勝地への経由地点であり、普段はトレッカーでにぎわっているのですが、いまも客足はなく、ゲストハウスも仕事にならないとのことでした。今後、観光業の復活とともに、IHC のパンフレットをホテルやゲストハウスにおいてもらえるように打診してきました。



IHC の活動の原点、スワンタ村のロープライン。人々は 700m 程度離れた向かいの山から、薪や枝打ちした飼料を運ぶ。



結束ワイヤーに破断がみられ、現在は修復が必要な状態になっている。



事務局 だより

ヒマラヤ保全協会の会員総会2022年度を開催します！

【日時】 2022年5月28日(土) 14:00～

【場所】 京都大学東京オフィス新丸の内ビルディング 10階会議室

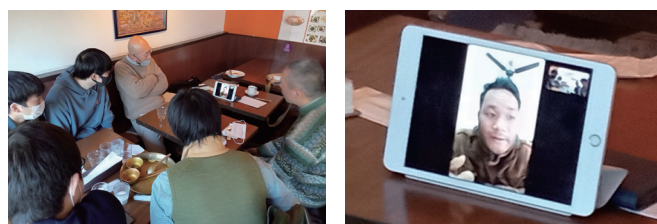
〒100-6510 東京都千代田区丸の内 1-5-1 新丸の内ビルディング 10階

詳細は、IHCのFacebookページやWebsiteでお知らせさせていただきます。ご参加を希望される会員のみなさまは、同封した返信ハガキか、E-mailにてご連絡をお願いいたします。

議題は、本年の助成金の受託状況（緑の地球防衛基金さま、日中友好会館さま）のほか、プロジェクトの概要についてもご報告させていただきます。

多額寄付者さま

共同カイトック アースコンシャス
かみひとねっとわーく アムリターラ
チャールズワードほか



理事会 2021年10月10日、代々木 AMA にて
IHCN スタッフ ルケシュさんも Zoom で参加しました！

お知らせ

【財】日中友好会館の「日中植林・植樹国際連帯事業」(2021年度)に採択されました！

今年 2022 年 1 月 20 日付けで、【財】日中友好会館の実施する植林関連事業「日中植林・植樹国際連帯事業」(2021 年度)に、IHC のプログラムが採択されました。新規事業は「ネパール西部ダウラギリ県での生活有用林再生の持続型アグロフォレストリー事業」で、これまでの植林事業に加え、果樹苗の生産～栽培～結実までを見越したアグロフォレストリー事業を実施します。

事業予定地は、バランジャ村、サリジャ村、レスパル村を主要地点として、果樹や稚幼木を周辺村々の農家さんへ配布したり、間隙地に植林したりする予定です。また、学校や病院へのサクラの寄贈植栽や、街路樹の植栽も検討しています。詳細につきましては、『シャングリラ』誌面上や、Facebook ページにて随時アップします！

100円で1本の木をヒマラヤに植えよう！ ご支援お待ちしております！

シャングリラ第110号 2022年3月1日発行 編集・発行 NPO法人 ヒマラヤ保全協会

TEL: 080-3570-8458 e-mail: ihcjpn@ybb.ne.jp ホームページ: <http://www.ihc-japan.org>